

投手の 12 秒及び 20 秒ルールの取り扱い基準（準決勝から採用する。）

1. 12 秒及び 20 秒ルール

投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、

走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合には20秒以内に投球しなければならない。

違反した場合、球審は走者が塁にいない場合にはただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告する。

なお、塁に牽制球を送球したときは、20秒の計時をリセットする。

2. 計時

計時は二塁塁審がストップウォッチを持って行う。(3人制は三塁塁審)

3. 12秒ルールの適用

①走者がいない場合に適用する。

②12秒の計時は、投手がボールを所持し、打者がバッターボックスに入り、投手に面したときに始まり、投手が投球動作を開始したときに終わる。

※審判員は、5.07(c)(1)(2)について、強く指導すること。

③12秒を経過したとき(13秒になったとき)、二塁塁審(三塁塁審)はタイムを宣告し、球審に12秒が経過したことを知らせる。

※二塁塁審(三塁塁審)のタイムの宣告と同時にボールデッドとなる。

※タイムの宣告にもかかわらず投手が投球した後のプレイは無効とする。

④二塁塁審(三塁塁審)の知らせを受けた球審は、ボールを宣告する。

その際、球審は投手及び守備側の監督に12秒ルールを適用したことを告げる。

4. 20秒ルールの適用

①走者がいる場合に適用する。

②20秒の計時は、次のときに始まり、いずれの場合も投手が投球動作を開始したときに終わる。

A)イニングが始まる時やボールデッドになったときは、球審がプレイを宣告したとき。

B)ボールインプレイの状態、新しい打者が打撃を開始するときや、打者がバッターボックスの外に出ざるを得なくなったときなどは、投手がボールを所持し、打者がバッターボックスに入り、投手に面したとき。

C)ボールインプレイの状態、打者がバッターボックス内で打撃を継続しているときは、投手が捕手や他の野手からボールを受け取り、打者に面したとき。

※審判員は、5.07(c)(1)(2)について、強く指導すること。

③20秒を経過したとき(21秒になったとき)、二塁塁審(三塁塁審)はタイムを宣告し、球審に20秒が経過したことを伝達する。

※二塁塁審(三塁塁審)の「タイム」と同時にボールデッドとなる。

※タイムの宣告にもかかわらず投手が投球した後のプレイは無効とする。

④二塁塁審(三塁塁審)の知らせを受けた球審は、同一投手の 2 度目までの違反に対して投手及び守備側の監督に 20 秒が経過したことの警告を発し、その回数を知らせる。

⑤同一投手が3度目に20秒を経過し21秒になったとき、二塁塁審は(三塁塁審)と球審は、走者がいないときと同様の処置をする。

⑥投手が塁に牽制球を送球したときは、20秒の計時をリセットする。

※投手板をはずしただけのときや偽投のときは、計時を継続する。

※送りバントのケースなど、捕手が内野手にサインを出している間も、計時は継続する。